

## 全国港湾第14回港湾労働セミナー開催

### 交流と勉強の3日間、あとは職場で頑張ろう！

全国港湾第一四回港湾労働セミナーは、五月二十九日（月）午後から五月三十一日（水）午前にかけて豊橋市「ホテルシーパレスリゾート」において、各単組、地区港湾から八十五名の参加と、講師や役員、実行委員を含め総勢九十七名で開催された。

セミナーは四回の講座を聴講し途中、レクリエーションのボウリングゲームを挟み、最後に感想文を提出し、組合運動を学習する意義ある三日間となった。

一日目、五月二十九日午「ITF（国際運輸労連）後からの、開催セミナーの活動について」と題し、市川書記次長の司会でITF東京事務所所長の講演を受けた。

主催者を代表し開会挨拶に立った系谷委員長は「全国港湾は、一元請けから検定まで七つの職種が集まって、一つの業務をこなしている。歴史は、日祝休闘争から協議会を経て、連合会となりました。世界的に労働者への圧力が強まっているなか、港湾も同様である。現在の政治状況、国民的課題を、このセミナーを通じて、学んでほしい。理解を深めることを願う」と述べた。

その後、日程説明、諸注意があり第一講座として土の宮里先生から講演を頂

「産別団体交渉と独占禁止法について」と題し、弁護士

五月二十七日（土）十三時三十分より、大阪港湾労働者福祉センターで「第六回大阪港湾労働セミナー」が加盟単組、関係団体を含め、総勢百三十名の参加で開催された。

## 大阪港湾労働セミナー

五月二十七日（土）十三時三十分より、大阪港湾労働者福祉センターで「第六回大阪港湾労働セミナー」が加盟単組、関係団体を含め、総勢百三十名の参加で開催された。

セミナーは、大港労働小嶋議長の主権者代表の挨拶から始まり、大阪市立大学名誉教授の西谷敏先生の「①産別団体交渉と独占禁止法の基本的人権と労働組合法について」と題し、講義を受けた。

五月二十七日（土）十三時三十分より、大阪港湾労働者福祉センターで「第六回大阪港湾労働セミナー」が加盟単組、関係団体を含め、総勢百三十名の参加で開催された。

セミナーは、大港労働小嶋議長の主権者代表の挨拶から始まり、大阪市立大学名誉教授の西谷敏先生の「①産別団体交渉と独占禁止法の基本的人権と労働組合法について」と題し、講義を受けた。



五月二十七日（土）十三時三十分より、大阪港湾労働者福祉センターで「第六回大阪港湾労働セミナー」が加盟単組、関係団体を含め、総勢百三十名の参加で開催された。

セミナーは、大港労働小嶋議長の主権者代表の挨拶から始まり、大阪市立大学名誉教授の西谷敏先生の「①産別団体交渉と独占禁止法の基本的人権と労働組合法について」と題し、講義を受けた。



### シャモ樽

日本の子供  
の数が激減し  
ている▼一六  
年に、日本で  
生まれた子供  
は約九七万六  
千人。百万人  
を切るの統計を開始して  
以来、初めての事である。  
七〇年代の第二次ベビーブ  
ームでは、二百万人を超えて  
いたから、半分以下に落  
ち込んだ▼出生数が減った  
原因としては、いま既婚女  
性の多くが働いているなか  
で、待機児童問題やマタニ  
ティハラスメントなどを見  
れば、出産をためらうのも  
当然だ。しかし、一番の問題  
は経済問題にある。非正  
規・低賃金労働の拡大で、  
若い世代が子育てに使える  
お金の余裕がなくなってい  
る。とりわけ、結婚しない  
人が増えているのも低賃金  
が背景とされる。これらの  
対策としては、普通に働い  
て普通に暮らせるだけの賃  
金を保障するのが第一。そ  
のためには最低賃金の引き  
上げや同一労働同一賃金の  
実現などが重要となる。ま  
た、幼児教育の無償化や保  
育施設の拡充など、子育て  
をしやすい環境を広げて行  
くことも求めなければなら  
ない▼大企業の内部留保は  
四〇〇兆円超、富裕層の資  
産も増え続けている。富の  
偏在や格差に目を向けない  
まま「子供保険が必要、子  
供保険をみんなが負担」と  
いうことは疑問だ。子育て  
支援のために法人税や所得  
税の累進率を強めるなどの  
適正課税がまず必要だ。